

特別講演 1

7月19日(日) 11:00~11:50 第1会場(3F・富士A・B)

司会：城谷 典保 (医療法人社団鴻鵠会 理事長)

SP-1 在宅での看取りのために必要な知識

長尾 和宏

医療法人社団裕和会 長尾クリニック 院長

特別講演 2

7月20日(月・祝) 11:00~11:50 第1会場(3F・富士A・B)

司会：蘆野 吉和 (社会医療法人北斗 十勝リハビリセンター
在宅医療介護支援センター 地域緩和ケア支援センター)

SP-2 退院支援は人生の再構築を支援すること ~どう生きるかを地域で支える~

宇都宮 宏子

在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス 代表

シンポジウム 1

7月19日(日) 9:00~10:50 第1会場(3F・富士A・B)

「地域で看取る① 疾患による」

司会：英 裕雄 (医療法人社団三育会 新宿ヒロクリニック 院長)

荻野 美恵子 (北里大学医学部附属新世紀医療開発センター
横断的医療領域開発部門 包括ケア全人医療学)

S1-1 医療依存度の高い癌患者の在宅看取り

杉本 由佳

すぎもと在宅医療クリニック 院長

S1-2 がんの看取り

井尾 和雄

医療法人社団在和会 立川在宅ケアクリニック 院長

S1-3 神経難病の在宅看取りについて

荻野 美恵子

北里大学医学部附属新世紀医療開発センター 横断的医療領域開発部門 包括ケア全人医療学

S1-4 認知症者の看取りと死前教育のタイミング

高瀬 義昌

医療法人社団至高会 たかせクリニック 理事長

S1-5 かかりつけ医が行う在宅看取り

鈴木 央

鈴木内科医院 院長

シンポジウム2

7月19日(日) 13:00~15:00 第1会場(3F・富士A・B)

「地域で看取る② 現場連携 ～介護、看護、医療、歯科～」

司会：平原 佐斗司（東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所）

山田 雅子（聖路加国際大学 看護学部）

S2-1 在宅ケアのつながる力 ～地域包括ケアの時代に、看取りを巡る医療連携～

秋山 正子

株式会社ケアーズ 代表取締役 白十字訪問看護ステーション 統括所長／暮らしの保健室 室長

S2-2 調剤薬局の立場から

高木 和江

みよの台薬局グループ

S2-3 リハビリの立場から 一終末期における在宅呼吸リハビリを中心にー

岩城 基

国家公務員共済組合連合会 吉島病院 リハビリテーション科

S2-4 最期まで食べられる街づくり

五島 朋幸

ふれあい歯科ごとう 代表

S2-5 地域包括ケア時代の在宅医療と多職種連携

平原 佐斗司

東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所

シンポジウム3

7月19日(日) 15:10~16:50 第1会場(3F・富士A・B)

「情報共有 ICT」

司会：高林 克日己（医療法人社団鼎会 三和病院 顧問）

S3-1 豊島区におけるメディカルケアステーションの利活用について
～地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みの実際と今後の展望～

土屋 淳郎

豊島区医師会／医療法人社団創成会 土屋医院 院長

- S3-2 東京都北区における ICT による多職種ネットワークの構築
河村 雅明
一般社団法人東京都北区医師会 副会長
- S3-3 柏市における医療・介護多職種連携とそれを支える情報共有システム
古賀 友之
柏市在宅医療・介護多職種連携協議会 多職種連携・情報共有システム部会
のぞみの花クリニック 院長
- S3-4 地域包括ケアシステム構築における医療介護専用 SNS「メディカルケアステーション」
の活用
～栃木県統一医介連携ネットワーク「どこでも連絡帳」の実際～
長島 公之
一般社団法人栃木県医師会 常任理事

シンポジウム4

7月20日(月・祝) 9:00～11:00 第1会場(3F・富士A・B)

「看取り連携 病一診連携 ～退院支援、後方支援ベット～」

司会：蘆野 吉和 (社会医療法人北斗 十勝リハビリセンター
在宅医療介護支援センター 地域緩和ケア支援センター)
宇都宮 宏子 (在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス 代表)

- S4-1 がん研有明病院の取り組みと問題点
唐渡 敦也
公益財団法人がん研究会 がん研有明病院 緩和ケアセンター 医療連携部 部長
- S4-2 がん患者の退院支援からみた地域包括ケアシステムの課題
鹿渡 登史子
日本大学医学部附属板橋病院 医療連携センター 師長
- S4-3 がん治療を終了する患者が、安心して希望する場所で過ごすために
～東京都がん地域医療連携モデル病院としての活動～
廣橋 猛
永寿総合病院 緩和ケア科病棟長 がん診療支援・緩和ケアセンター長
- S4-4 がん患者における退院支援の現状と問題点
大松 重宏
兵庫医科大学 ささやま医療センター 地域総合医療学

S4-5 関わる人、誰もが「支えられている」と感じる看取りを

武山 ゆかり

豊島区在宅医療相談窓口 医療ソーシャルワーカー

特別発言

渡辺 淳子

医療法人社団淳友会 わたくりニック 院長

ワークショップ1

7月19日(日) 9:00~9:50 第2会場(3F・富士C・D)

「これからの訪問栄養士」

座長：中村 育子（医療法人社団福寿会 福岡クリニック在宅部 栄養課）

W1-1 超高齢社会に必要な管理栄養士

前田 佳予子

武庫川女子大学 生活環境学部 食物栄養学科 教授

W1-2 在宅において多職種連携で生活を支え、低栄養の改善に向かった症例

水島 美保

山口内科 栄養室

ワークショップ2

7月19日(日) 10:00~10:50 第2会場(3F・富士C・D)

「これからの訪問看護」

座長：山田 雅子（聖路加国際大学 看護学部）

W2-1 これからの訪問看護

菅原 由美

NPO 法人 全国訪問ボランティアナースの会 キャンナス 代表

W2-2 ホームホスピス ～最後の棲家としての訪問看護

木戸 恵子

株式会社ウッディ 訪問看護ステーション はーと 代表取締役

ワークショップ3

7月19日(日) 15:00~15:50 第3会場(3F・カシオペア)

「これからの保険薬局」

座長：串田 一樹（昭和薬科大学）

W3-1 薬局が変われば、日本の医療が本当に変わる！

奈良 健

株式会社サン薬局 在宅薬物治療支援部 部長

W3-2 薬局として超高齢・多死社会を支えるためには？

前田 桂吾

株式会社フロンティアファーマシー ファーマシー事業部 部長

ワークショップ4

7月20日(月・祝) 9:00~9:50 第3会場(3F・カシオペア)

「口腔ケア連携（歯科）」

座長：高田 靖（豊島区歯科医師会 専務理事／高田歯科医院）

W4-1 口腔ケア連携（歯科）

五島 朋幸

ふれあい歯科ごとう 代表

W4-2 歯科訪問診療における摂食・嚥下障害へのアプローチ VE 依頼の実態調査

大塚 博子

医療法人社団高輪会 訪問歯科研究所 副所長、口腔ケアセンター長

ワークショップ5

7月20日(月・祝) 10:00~10:50 第3会場(3F・カシオペア)

「これからの介護」

座長：鈴木 央（鈴木内科医院 院長）

W5-1 大都市部のメリットを最大限活かした『都市型見守りネットワーク』構築 ～まちづくりに今、専門職ができること～

澤登 久雄

大田区地域包括支援センター入新井 センター長

社会医療法人財団仁医会 牧田総合病院 在宅サービスセンター センター長

W5-2 ナラティブ（物語り）とエビデンスの融合で在宅生活を支えよう

内藤 茂順

株式会社やさしい手 ショートステイ事業部長

緩和ケアセミナー1

7月19日(日) 13:00~14:00 第2会場(3F・富士C・D)

「非がん緩和ケア①」

司会：山中 崇（東京大学医学部 在宅医療学拠点）

非がんの緩和の現状と今後

荻野 美恵子

北里大学医学部附属新世紀医療開発センター 横断的医療領域開発部門 包括ケア全人医療学

緩和ケアセミナー2

7月19日(日) 14:10~15:10 第2会場(3F・富士C・D)

「鎮痛補助剤」

司会：井上 大輔（日本医科大学 臨床教授／
日本医科大学千葉北総病院 緩和ケア科 部長）

共催：ファイザー株式会社

緩和ケアの質の向上につながる神経障害性痛治療のポイント

—まずは痛い場所に触れてみよう—

加藤 実

日本大学医学部 麻酔科学系麻酔科学分野 診療教授

緩和ケアセミナー3

7月19日(日) 15:20~16:20 第2会場(3F・富士C・D)

「非がん緩和ケア②」

司会：福井 基成（田附興風会医学研究所 北野病院 副院長・
呼吸器センター長）

共催：大陽日酸株式会社／日本メガケア株式会社／
パシフィックメディコ株式会社

欧米豪にみる高齢者終末期医療 —日本との比較—

宮本 顕二

独立行政法人労働者健康福祉機構 北海道中央労災病院 院長

在宅ケアセミナー（ハンズオンセミナー）1

7月19日(日) 9:00~10:00 第3会場(3F・カシオペア)

「呼吸器領域」呼吸器関連の企業の製品紹介・実演

司会：柵山 年和（東京慈恵会医科大学 教育センター
腫瘍・血液内科 准教授）

1. 帝人在宅医療株式会社
2. フクダライフテック株式会社
3. フィリップス・レスピロニクス合同会社
4. エア・ウォーター・メディカル株式会社
5. オムロンコーリン株式会社

在宅ケアセミナー（ハンズオンセミナー）2

7月19日(日) 10:10~10:50 第3会場(3F・カシオペア)

「疼痛管理領域」疼痛管理関連の企業の製品紹介・実演

司会：池田 博斉（医療法人社団愛語会 要町病院）

1. スミスメディカル・ジャパン株式会社
2. テルモ株式会社
3. 株式会社ジェイ・エム・エス

在宅ケアセミナー（ハンズオンセミナー）3

7月19日(日) 11:00~11:40 第3会場(3F・カシオペア)

「栄養領域」栄養関連企業の製品紹介・実演

司会：望月 弘彦（クローバーホスピタル 消化器科）

1. ニプロ株式会社
2. エア・ウォーター・メディカル株式会社
3. パラマウントベッド株式会社

CVポート実践セミナー in 東京 2015

7月20日(月・祝) 10:00~11:50、13:30~16:05 第2会場(3F・富士C・D)

「CVポートを理解し、使いこなす」

1) CVポート実践セミナー1 (10:00~11:50)

司会 高橋 慶一 (がん・感染症センター 都立駒込病院外科)

10:00~10:15 ポートの歴史とCVポート利用の現状

講師: 高橋 慶一 (がん・感染症センター 都立駒込病院外科)

10:15~10:35 CVポート利用の実際:在宅医の立場から

講師: 英 裕雄 (新宿ヒロクリニック)

10:35~10:45 CVポート留置のためのアプローチ法

講師: 瀬瀬 真一郎 (独協医大越谷病院外科)

10:45~11:35 CVポート留置法の実際

講師: 瀬瀬 真一郎 (独協医大越谷病院外科)

講師: 坂元 克考 (がん・感染症センター 都立駒込病院外科)

11:35~11:50 CVポートを安全に留置するために (フリーディスカッション)

ディスカッサント: 瀬瀬 真一郎 (独協医大越谷病院外科)

坂元 克考 (がん・感染症センター 都立駒込病院外科)

2) CVポート実践セミナー2 (13:30~16:05)

司会 高橋 慶一 (がん・感染症センター 都立駒込病院外科)

13:30~14:00 ポートの構造の理解とメンテナンス

講師: 瀬瀬 真一郎 (独協医大越谷病院外科)

14:00~14:30 体験:ポートに針を刺してみよう (デモと穿刺の実際)

講師: 坂元 克考 (がん・感染症センター 都立駒込病院外科)

休憩 (10分)

14:40~15:20 CVポートの合併症とその対策

講師: 高橋 慶一 (がん・感染症センター 都立駒込病院外科)

15:20~16:00 CVポートを安全に使用するために (フリーディスカッション)

ディスカッサント: 瀬瀬 真一郎 (独協医大越谷病院外科)

坂元 克考 (がん・感染症センター 都立駒込病院外科)

ランチョンセミナー1

7月19日(日) 12:00~12:50 第1会場(3F・富士A・B)

司会：高橋 慶一（がん・感染症センター都立駒込病院 外科）
共催：ヤンセンファーマ株式会社

LS-1 がん疼痛治療におけるタペンタドールの役割

佐藤 哲観

弘前大学医学部附属病院 麻酔科 緩和ケア診療室

ランチョンセミナー2

7月19日(日) 12:00~12:50 第2会場(3F・富士C・D)

司会：英 裕雄（医療法人社団三育会 理事長）
共催：第一三共株式会社

LS-2 アルツハイマー病：日常診療のヒント

繁田 雅弘

首都大学東京 人間健康科学研究科 教授

ランチョンセミナー3

7月19日(日) 12:00~12:50 第3会場(3F・カシオペア)

司会：竹山 廣光（名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器外科 教授）
共催：田辺三菱製薬株式会社／テルモ株式会社

LS-3 なごやかモデルの紹介と超高齢社会における人工栄養のあり方

赤津 裕康

名古屋市立大学コミュニティ・ヘルスケア教育研究センター 地域療養医学 副センター長

ランチョンセミナー4

7月19日(日) 12:00~12:50 第4会場(2F・曙)

司会：橋本 修（日本大学医学部 内科学系 呼吸器内科学分野 教授）
共催：ノバルティス ファーマ株式会社

LS-4 慢性閉塞性肺疾患（COPD）における呼吸ケアの基本

権 寧博

日本大学医学部 内科学系 呼吸器内科学分野 准教授

ランチョンセミナー5 7月20日(月・祝) 12:00~12:50 第1会場(3F・富士A・B)

司会：吉澤 明孝 (医療法人社団愛語会 要町病院 副院長)
共催：久光製薬株式会社

LS-5 **がん疼痛に対する薬物療法**

樋口 比登実
昭和大学病院 緩和医療科

ランチョンセミナー6 7月20日(月・祝) 12:00~12:50 第2会場(3F・富士C・D)

司会：吉澤 孝之 (医療法人社団愛語会 要町病院 院長)
共催：MSD 株式会社

LS-6 **不眠症の病態と治療**

内山 真
日本大学医学部 精神医学系 主任教授

ランチョンセミナー7 7月20日(月・祝) 12:00~12:50 第3会場(3F・カシオペア)

司会：平原 佐斗司 (東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所)
共催：エーザイ株式会社

LS-7 **在宅医療における認知症医療の課題と目標**

本間 昭
認知症介護研究・研修東京センター センター長

ランチョンセミナー8 7月20日(月・祝) 12:00~12:50 第4会場(2F・曙)

司会：城谷 典保 (医療法人社団鴻鵠会 理事長)
共催：ニプロ株式会社

LS-8 **在宅医療における ICT (Information and Communication Technology)・PHR (Personal Health Record) の活用**

高野 秀雄
高野クリニック 院長

イブニングセミナー1 7月19日(日) 17:00~17:50 第1会場(3F・富士A・B)

司会：吉澤 明孝（医療法人社団愛語会 要町病院 副院長）
共催：塩野義製薬株式会社

ES-1 **がん疼痛治療科の最前線：患者の在宅療養を目指して**

服部 政治

公益財団法人がん研究会有明病院 緩和ケアセンター／

緩和・がん疼痛治療部 部長、がん疼痛治療科 部長

イブニングセミナー2 7月19日(日) 17:00~17:50 第2会場(3F・富士C・D)

司会：久米 健市（一般社団法人日本エステティック協会 理事長）
共催：一般社団法人日本エステティック協会

ES-2 **トリートメントサポートとしてのソシオエステティックの役割**

光江 弘恵

一般社団法人日本エステティック協会（CODES-JAPON）

イブニングセミナー3 7月19日(日) 18:00~18:50 第3会場(3F・カシオペア)

司会：泰川 恵吾（医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン診療所 理事長）
共催：旭化成メディカル株式会社

ES-3 **大量腹水患者の在宅希望を叶える！**

～改良型腹水濾過濃縮再静注法（KM-CART）による積極的症候緩和とオーダーメイド
癌治療への活用～

松崎 圭祐

医療法人社団愛語会 要町病院 腹水治療センター センター長

イブニングセミナー4 7月19日(日) 18:00~18:50 第4会場(2F・曙)

司会：蘆野 吉和（社会医療法人北斗 北斗病院 緩和医療科部長
総合診療科部長 在宅緩和療養センターセンター長
地域包括ケア推進センターセンター長）
共催：ナック商会株式会社

ES-4 **リンパ浮腫に対するケアのポイント**

新井 恒紀

学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所

モーニングセミナー1 **7月20日(月・祝) 8:00~8:50** 第1会場(3F・富士A・B)

司会：吉澤 明孝（医療法人社団愛語会 要町病院 副院長）
共催：株式会社大塚製薬工場

- MS-1 在宅での看取り（看病）に欠かすことのできない
在宅療養サポートチーム（hST）による摂食嚥下支援を織り込んだ食支援
西山 順博
医療法人西山医院 院長

モーニングセミナー2 **7月20日(月・祝) 8:00~8:50** 第2会場(3F・富士C・D)

「地域包括ケアシステム構築基盤の多職種連携システムについて」

司会：長島 公之（長島整形外科 院長／
全国医療介護連携ネットワーク研究会 理事長）
共催：株式会社日本エンブレース

- MS-2-1 地域包括ケアシステム構築におけるメディカルケアステーションの有用性
土屋 淳郎
医療法人社団創成会 土屋医院 院長
- MS-2-2 メディカルケアステーションの機能と最新情報 ～将来展望と可能性～
伊東 学
株式会社日本エンブレース 代表取締役 兼 CEO

モーニングセミナー3 **7月20日(月・祝) 8:00~8:50** 第3会場(3F・カシオペア)

共催：株式会社やさしい手

- MS-3 在宅医療と在宅介護と生活支援サービスの統合ケアマネジメントによる地域包括ケアの実現
香取 幹
株式会社やさしい手 代表取締役社長

「自宅で看取るとは」

挨拶：高野 之夫（豊島区長）

【第1部】 座談会

司会：田城 孝雄（豊島区在宅医療連携推進会議 会長／放送大学大学院 教授）

高橋 清輝（公益社団法人豊島区医師会 副会長）

基調講演

吉澤 明孝

医療法人社団愛語会 要町病院 副院長／要町ホームケアクリニック 院長

体験談「自宅で親を看取る」

小池 百合子

衆議院議員

【第2部】 ミュージカル「ほほえみのかけ橋」公演

司会：城谷 典保（医療法人社団鴻鵠会 理事長）

吉澤 明孝（医療法人社団愛語会 要町病院 副院長）

公演：NPO 法人 キャトル・リーフ

第3回 全国医療介護連携ネットワーク研究会

7月20日(月・祝) 13:30~16:00 第3会場(3F・カシオペア)

「ひろがる・ひろまる、多職種連携システム」

- 13:30~ 開会の挨拶：長島 公之（全国医療介護連携ネットワーク研究会理事長）
- 13:35~ 基調講演 多職種連携システムの位置づけ
長島 公之（栃木県医師会常任理事、全国医療介護連携ネットワーク研究会理事長）
- 14:00~
【第1部】 各地域における広がり
座長：山下 巖（全国医療介護連携ネットワーク研究会理事）
- 演題1 栃木県における取り組みについて**
長島 公之（栃木県医師会常任理事、全国医療介護連携ネットワーク研究会理事長）
- 演題2 豊島区および豊島区医師会の取り組み**
土屋 淳郎（豊島区医師会、全国医療介護連携ネットワーク研究会理事）
- 演題3 大阪市都島区エリアの取り組みについて**
大濱 江美子（大阪市立総合医療センターMSW）
- 演題4 稲城市・町田市エリアにおける取り組み**
小林 輝信（徳永薬局在宅部統括部長、株式会社グローライフ取締役）
- 演題5 横浜市エリアにおける取り組みについて**
柏手 一臣（秋本薬局港南台店）
- 演題6 武蔵野市での行政の取り組みについて**
笹井 肇（武蔵野市健康福祉部長）
- パネルディスカッション（テーマ：各地域で工夫したこと・困ったこと）
- 15:30~
【第2部】 アプリやシステムの広がり
座長：伊東 学（日本エンブレース代表取締役兼 CEO）
- 演題1 連携リクエストアプリについて**
土屋 淳郎（豊島区医師会、全国医療介護連携ネットワーク研究会理事）
- 演題2 地域資源マップについて**
小倉 佳浩（日本エンブレース取締役）
- 演題3 医見書連携・FAX 連携アプリについて**
永島 道夫（メディカルドメイン株式会社代表取締役）
- 演題4 早期認知障害（MCI）アプリとMCS 連携について**
倉橋 絢也（オレンジアクト代表）
- 演題5 介護アプリ「ファーストケア」とMCS の連携**
次田 芳尚（株式会社ビーシステム）
- 15:57~ 閉会の挨拶：山下 巖（全国医療介護連携ネットワーク研究会理事）

「QOL 評価研究の進め方：概念、測定、そして実践」

座長：鈴木 央（鈴木内科医院）

演者：宮崎 貴久子（京都大学）、鈴木 よしみ（東北大学）

内藤 真理子（名古屋大学）、白岩 健（国立保健医療科学院）

【プログラム内容】

Quality of Life（生活の質、生命の質：QOL）の基本的概念から測定・評価方法と実践例、医療経済の考え方に至るまで、QOL 評価研究の進め方について発表する。

医療のアウトカムでは主に罹患率や重症度、死亡率などの客観的指標が使われている。しかし近年、疾病構造の変化によって糖尿病、動脈硬化、がんなどの慢性疾患や生活習慣病が増加してきたことにより、医療による完治や生存期間の延長だけを指すのではなく、病と共に生活する期間をどのように過ごすか、あるいは在宅でどのような医療介入や支援が必要となるのかが問題となってきた。そこで、患者の視点から評価する患者報告・立脚型アウトカムの必要性が認識されるようになる。つまり、患者の主観による QOL や患者から直接得る Patient-Reported Outcome（PRO）の測定である。

QOL は、患者や一般の人々の主観的な健康や医療の効果に関する評価指標の一つであり、幅広い概念をもつ。大方の医療者は「QOL」という語を知っているが、QOL の概念や、的確な測定方法、データの解釈、また医療経済との関連については十分に知られていない。QOL は、1948 年の WHO の健康の定義に準拠するとコンセンサスが取られている。そこで、客観的に直接測れない QOL をより正確に把握するために、計量心理学的な検討が重ねられ、目的別の尺度が開発されてきた。つまり、漠と「QOL を測る」のではなく、測定者がどのような目的で QOL を測定するのかを明確にする必要が生じる。そこで、1) 何のために測定するのかという目的、2) その目的に合致した構成の QOL 質問票、3) QOL 評価票の信頼性と妥当性、4) 患者自身による評価、5) 統計学的に依拠した分析など、QOL 評価に際して必要となる基本的事項の確認と、具体的な測定・評価方法を説明する。また、QOL 評価研究の実例を紹介して、QOL 評価からどのような結論が導きだせるのかを提示する。最後に将来的に避けては通れない医療経済と QOL の関連性について言及する。

後援の QOL/PRO 研究会は 2011 年 1 月に、国際 QOL 研究学会（International Society for Quality of Life Research: ISOQOL）に定期的に参加する有志によって設立された。QOL を始めとする PRO（Patient-Reported Outcomes）に関する研究に携わる幅広い分野の研究者が情報を交換し、質の高い研究を実現し、社会に還元することを目指している。

http://qol_pro.umin.jp/goaisatsu.html

「看取り」

座長：杉本 由佳（すぎもと在宅医療クリニック 院長）

- R1-1 今日在宅医は「ストライク」～ガン末期の事例を通して考える～
 荻原 美代子¹⁾、石川 光子¹⁾、山岡 桂大²⁾、藤巻 洋子³⁾、渡辺 陸子³⁾、串田 一樹⁴⁾
¹⁾ 二子薬局はなえケアステーション、²⁾ 田園二子クリニック、³⁾ メディカル薬局、⁴⁾ 昭和薬科大学
- R1-2 在宅で安心して看取りが出来ることを目指して～兄を看取られた妹さんの思い～
 本多 千鶴、亀井 たけし、安部 啓子、平井 舞佳、加藤 秀美、山田 博美、秋山 恵美
 大分県医療生協 けんせいホームケアクリニック
- R1-3 在宅看取りを多職種で支える意義
 森山 薫¹⁾、岡田 美幸¹⁾、田村 直美²⁾
¹⁾ 広島赤十字・原爆病院 訪問看護ステーション、²⁾ 広島赤十字・原爆病院 がん相談支援センター
- R1-4 『地域の多職種でつくった死亡診断時の医師の立ち居振る舞いについてのガイドブック』
 の作成過程と今後の展開について
 日下部 明彦^{1,2)}、平野 和恵^{3,4)}、齊藤 直裕⁵⁾、池永 恵子⁶⁾、檜柑 富貴子⁷⁾、沖田 将人²⁾、
 稲森 正彦⁸⁾、白土 明美⁹⁾、森田 達也⁹⁾
¹⁾ 横浜市立大学 総合診療医学、²⁾ みらい在宅クリニック、
³⁾ 一般社団法人南区医師会 南区医師会訪問看護ステーション、⁴⁾ がん研有明病院、⁵⁾ ゆう薬局、
⁶⁾ マザーライク訪問看護ステーション、⁷⁾ 熊本大学大学院保健学教育部 博士後期課程、
⁸⁾ 横浜市立大学附属病院 臨床研修センター、⁹⁾ 聖隷三方原病院 緩和支援治療科
- R1-5 緩和ケア病棟でも在宅看取りの支援ができる
 佐野 広美、高杉 知明、上村 美穂子
 医療法人財団慈生会 野村病院 緩和ケア内科
- R1-6 がん患者の在宅看取りを可能にする要因の検討
 杉本 由起子¹⁾、三上 雅美¹⁾、玉井 一美¹⁾、高橋 宏幸²⁾、本家 好文³⁾、亀井 典子⁴⁾、
 増田 百合香⁴⁾、石橋 里美⁴⁾
¹⁾ 東広島地区医師会地域連携室 あざれあ、²⁾ 東広島地区医師会、³⁾ 広島県緩和ケア支援センター、
⁴⁾ 広島県緩和ケア支援センター 緩和ケア支援室
- R1-7 東京都での末期癌患者の自宅看取りにおける在宅療養支援診療所と訪問看護ステーション
 の連携方法とその有用性
 市川 敦央、井尾 和雄、片桐 淳、荘司 輝昭
 立川在宅ケアクリニック

「連携」

座長：谷水 正人（独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
緩和ケア内科）

- R2-1 当センター在宅医療連携病床における在宅での看取りに関連した連携支援の現状
砂川 昌子
東京都健康長寿医療センター 総合診療科 在宅医療連携病床担当
- R2-2 医療と介護の連携強化への支援 ～新宿区での在宅診療医とケアマネジャーの交流会～
渡辺 友里恵¹⁾、板谷 智也^{2,3)}
¹⁾ 新宿区四谷高齢者総合相談センター、²⁾ 新宿区若松町高齢者総合相談センター、
³⁾ 大阪大学大学院医学系研究科
- R2-3 在宅患者の QOL を維持・向上するために開発した QOL 評価票について
紙谷 博子¹⁾、梅垣 宏行¹⁾、岡本 和士²⁾、神田 茂³⁾、葛谷 雅文¹⁾
¹⁾ 名古屋大学大学院医学系研究科 地域在宅医療学・老年科学教室、
²⁾ 愛知県立大学看護学部教授 疫学・公衆衛生学、³⁾ 南医療生協 かなめ病院
- R2-4 地域の医療コーディネーション機能向上のための取り組み
～豊島区在宅医療コーディネーター養成講座～
水木 麻衣子¹⁾、吉江 悟²⁾
¹⁾ 一般社団法人日本医療コーディネーター協会、²⁾ 東京大学医学部 在宅医療学拠点
- R2-5 地方都市の現状
市原 利晃、佐藤 浩平、後藤 和也
秋田往診クリニック
- R2-6 当院のデータからみた兵庫県西宮市における終末期がん診療連携の現況
森山 恵¹⁾、三宅 泰裕²⁾、岡 義雄²⁾、岸本 雅之¹⁾、松田 真奈美¹⁾、小川 弘之³⁾、池田 聡之³⁾、
根津 理一郎^{1,2)}
¹⁾ 西宮市立中央病院 地域医療連携室、²⁾ 西宮市立中央病院 外科、³⁾ 西宮市立中央病院 内科

「在宅IT」

座長：岡田 孝弘（オカダ外科医院）

- 01-1 在宅緩和ケアにおけるタブレット端末使用の試み**
竹重 俊幸¹⁾、吉岡 廉太郎²⁾、平野 千穂¹⁾、中川 みどり¹⁾
¹⁾ 福島県立医科大学 会津医療センター附属病院 緩和ケア科、²⁾ 会津大学
- 01-2 手書きと電子カルテ情報が同時に保存可能で、クラウドの使用できないオフライン環境でも使用可能な情報共有システム「ばと見ちゃん」の開発**
泰川 恵吾¹⁾、朴 元浩²⁾、大橋 徹士³⁾、久島 和洋¹⁾、曾我 幸弘¹⁾
¹⁾ ドクターゴン診療所、²⁾ Tachle 簡単健康管理ソリューション、³⁾ リオス
- 01-3 最先端介護機器貸与モデル事業を利用した要介護高齢者の看取りにおける遠隔リアルタイムモニタリングの活用**
坂野 紀子^{1,2)}、笠原 真悟^{1,3)}、篠崎 洋二⁴⁾、荻野 景規²⁾、佐野 俊二³⁾
¹⁾ 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 高齢社会医療・介護機器研究推進講座、
²⁾ 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 公衆衛生学、
³⁾ 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 心臓血管外科、⁴⁾ 医療法人篠洋会 篠崎クリニック
- 01-4 インターネットを活用した全国縦断勉強会（たねっと）の効果と課題 ～第二報～**
平野 和恵¹⁾、古川 典子²⁾、二本柳 舞³⁾、川崎 幸栄子⁴⁾、豊田 好美⁵⁾、齊藤 弓子⁶⁾、
坂田 千佳子⁷⁾、風間 祐子⁸⁾
¹⁾ 一般社団法人南区医師会 南区医師会訪問看護ステーション、²⁾ 稚内訪問看護ステーション、
³⁾ 一部事務組合下北医療センター むつ総合病院 地域連携室、
⁴⁾ (有) ライフデザイン さつま訪問看護ステーション松原、
⁵⁾ 横浜市旭区医師会 旭訪問看護リハビリステーション、
⁶⁾ 公益社団法人山梨県看護協会 ゆうき訪問看護ステーション、
⁷⁾ 交済会訪問看護ステーションやまびこ、⁸⁾ 公益社団法人静岡県看護協会 訪問看護ステーション清水
- 01-5 在宅療養支援診療所の活用事例に見るモバイル型の検査機器の有用性と課題**
畑 吉節未
神戸常盤大学 保健科学部 看護学科

「呼吸、リハ在宅」

座長：吉澤 孝之（医療法人社団愛語会 要町病院 院長）

- O2-1 在宅患者における呼吸器関連症状への対応と問題点**
木根 久江、中村 晴子、鈴木 悦子、大島 久美子、磯邊 靖、吉澤 明孝、吉澤 孝之
要町ホームケアクリニック
- O2-2 iPad を用いた吸入指導の効果 ～ウェブアプリ「吸入レッスン」～**
古川 典子、伊藤 玲子、権 寧博、橋下 修
日本大学医学部 内科学系 呼吸器内科分野
- O2-3 高齢者における閉塞性睡眠時無呼吸症候群の特徴と問題点**
橋田 洋史¹⁾、柴崎 佳奈¹⁾、石黒 俊彦^{1,2)}、吉澤 明孝²⁾、吉澤 孝之^{1,2)}
¹⁾医療法人社団愛語会 要クリニック、²⁾医療法人社団愛語会 要町病院
- O2-4 稚内市における人工呼吸器装着中の患児に対する緊急時対応体制の構築
～担当者会議の積み重ねから本人と家族が地域で安心して療養できる生活を整える～**
古川 典子¹⁾、齊藤 恵子¹⁾、平野 和恵²⁾
¹⁾一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 稚内訪問看護ステーション、
²⁾一般社団法人南区医師会 南区医師会訪問看護ステーション
- O2-5 臨床工学技士の介入により在宅用マスク式陽圧呼吸療法（Adaptive Servo Ventilation）
の使用時間が改善した1例**
五十嵐 義浩¹⁾、中島 礼¹⁾、土屋 貴大¹⁾、笹屋 賢史¹⁾、横田 彩乃¹⁾、川口 裕正¹⁾、齋藤 充央¹⁾、
佐藤 賢治¹⁾、大野 俊夫¹⁾、関谷 理¹⁾、清水 徹¹⁾、木田 圭亮²⁾、館田 武志³⁾
¹⁾聖マリアンナ医科大学病院 クリニカルエンジニア部、²⁾聖マリアンナ医科大学 循環器内科、
³⁾聖マリアンナ医科大学 麻酔学
- O2-6 在宅医療患者への日常生活動作能力改善への試みのアウトカムの検証
—施設利用、訪問看護、リハビリテーションの比較—**
盛田 真樹
医療法人社団仁明会 齋藤病院
- O2-7 在宅における COPD 包括的呼吸リハビリテーションの効果**
武知 由佳子
医療法人社団愛友会 いきいきクリニック

「在宅薬剤①」

座長：小川 幸雄（北里大学病院 薬剤部）

03-1 在宅医療における医薬品急配の実態

川俣 美智子¹⁾、岡田 全郎¹⁾、澤 浩子²⁾、上鶴 裕¹⁾、廣原 正宜³⁾、串田 一樹³⁾¹⁾(株) CFS コーポレーション 医療推進本部 調剤推進部、²⁾(株) CFS コーポレーション ハックドラッグ湘南ライフタウン薬局、³⁾昭和薬科大学

03-2 経済的な理由により十分な支援体制が難しい癌末期患者への薬剤師の関わり

町田 一美、田中 忠光

(有) 秩父薬剤師会調剤センター おがの薬局

03-3 医療用麻薬の供給体制について

串田 一樹¹⁾、藤巻 洋子²⁾、渡辺 陸子²⁾、廣原 正宜¹⁾¹⁾昭和薬科大学、²⁾丈夫屋メディカル

03-4 多職種連携における薬剤師の存在意義

奥田 徳子

大阪市立大学大学院 創造都市研究科

03-5 在宅業務における服薬支援アプリ（完璧服薬くん）導入による誤薬投与防止と介護スタッフのストレス軽減

渡邊 泰崇¹⁾、原田 智弘¹⁾、大神 敏生²⁾、廣野 千学²⁾、中居 利恵²⁾、遊道 康夫²⁾、佐藤 貴之²⁾、鈴木 泰裕²⁾、矢島 弘士³⁾、長谷川 寛²⁾¹⁾日本調剤福岡中央薬局、²⁾日本調剤株式会社、³⁾株式会社メディエイド

03-6 高齢者介護施設訪問薬剤管理指導業務における「家族向け報告書」の有用性について

佐藤 貴之¹⁾、長谷川 寛¹⁾、鈴木 泰裕²⁾、矢島 弘士³⁾、安井 正博³⁾、河野 文隆²⁾、小宮 尚之²⁾¹⁾日本調剤株式会社 薬剤本部 健保・施設推進部、²⁾日本調剤株式会社 システム第1部、³⁾株式会社メディエイド

03-7 在宅医療担当薬剤師教育について

長谷川 寛¹⁾、荒井 玲美²⁾、弓削 吏司²⁾、福岡 勝志²⁾¹⁾日本調剤株式会社 健保施設推進部、²⁾日本調剤株式会社 教育情報部

「在宅薬剤②」

座長：串田 一樹（昭和薬科大学）

O4-1 地域薬局との連携で在宅医療を支える ～訪問薬剤管理指導への一歩～

小倉 奈々¹⁾、福田 詩織^{1,2)}¹⁾医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院 薬剤科、²⁾鶴巻温泉病院 訪問・在宅支援サービス運営委員会

O4-2 患者さま宅への事前訪問の取り組みについて

藤田 龍、吉森 仁美、大森 清香、佐藤 貴之、長谷川 寛

日本調剤株式会社 健保・施設推進部

O4-3 在宅医療に参画する小規模薬局の現状と問題点

武田 浪弘¹⁾、濱名 智子¹⁾、岡 豊香¹⁾、串田 一樹²⁾¹⁾株式会社フレディ タカノ薬局、²⁾昭和薬科大学

O4-4 独居かつ認知機能が低下した高齢者に対する服薬支援のあり方

川名 三知代¹⁾、初田 稔¹⁾、廣原 正宜²⁾、串田 一樹²⁾¹⁾ココカラファイン薬局砧店 在宅調剤サポートセンター、²⁾昭和薬科大学

O4-5 通所介護を拠点とした多職種連携の構築と課題

中野 匡介¹⁾、峰川 久美子²⁾、池田 えり子²⁾、亀山 俊¹⁾、飯塚 敏美¹⁾、原 広子²⁾、堀口 雅巳¹⁾¹⁾株式会社望星薬局、²⁾りんどうデイサービス国府

O4-6 訪問診療クリニック薬剤師の支援による地域薬局薬剤師の在宅医療参加の促進

大須賀 悠子、遠矢 純一郎、西田 美幸、袴田 智伸、五味 一英、篠田 裕美、杉谷 真季、
染野 良子

医療法人財団プラタナス 桜新町アーバンクリニック 在宅医療部

「連携システム①」

座長：三村 卓司（社会医療法人緑社会 金田病院 外科）

O5-1 暮らしを支える医療を実現するための地域医療連携室の役割

井ノ畑 伸子、茅島 浩子、花田 貴美子、伊東 裕幸、久米 祥代、松岡 基美

宗像医師会病院

- 05-2 豊島区における地域で支えるソーシャルワーカーの役割 ～MSW と CSW の協働支援～
中辻 康博
公益社団法人豊島区医師会 在宅医療相談窓口
- 05-3 地域性を生かしたサークルネットワークを目指して
白坂 昌子
大阪府箕面市訪問看護ステーション アールドビープル
- 05-4 在宅医療に参画する薬局が外来業務を通して多職種連携を図れた一症例
—R配合経腸用液半固形剤への変更による経済的、介護的負担の軽減—
武田 浪弘¹⁾、濱名 智子¹⁾、岡 豊香¹⁾、松山 斉久²⁾、串田 一樹³⁾
¹⁾株式会社フレディ タカノ薬局、²⁾マザー・ホームクリニック、³⁾昭和薬科大学
- 05-5 地域包括ケア推進における訪問リハ職に求められる役割について
～在宅医療・介護連携の推進によって活動性が向上した一例を経験して～
平川 友恵¹⁾、橋本 三四郎²⁾、貝原 寿佳¹⁾、江口 徹²⁾、古川 明美³⁾、広尾 京子⁴⁾、平川 日登美⁴⁾
¹⁾医療法人清香会 目達原整形外科 訪問リハビリテーションめたばる、
²⁾医療法人清香会 目達原整形外科、³⁾上峰地区地域包括支援センター、⁴⁾公益社団法人佐賀県栄養士会
- 05-6 療養通所介護事業所における多職種連携の実際 —多職種連携のレベルから見えるもの—
鵜飼 知鶴、畑 吉節未
神戸常盤大学 保健科学部 看護学科
- 05-7 療養通所介護事業に従事する看護師がとらえた多職種連携上の課題
鵜飼 知鶴、畑 吉節未
神戸常盤大学 保健科学部 看護学科

一般演題6

7月19日(日) 17:00～17:50 第3会場(3F・カシオペア)

「連携システム②」

座長：山中 崇（東京大学医学部 在宅医療学拠点）

- 06-1 在宅医療における往診・看取りに役立つ頓用薬の標準化における研究
竹田 亮平、佐藤 幹也、笹沼 宏年、長谷 亘、中澤 幸史、矢尾 知恵子、一戸 由美子
河北医療財団 河北家庭医療学センター
- 06-2 介護施設入居者の薬剤使用に関する現状と課題
廣谷 芳彦、川村 仁美、中村 菜由梨、浦嶋 庸子、名徳 倫明
大阪大谷大学 薬学部 臨床薬剤学講座

- 06-3 大規模災害時における医薬品供給の考察
奥田 徳子
大阪市立大学大学院 創造都市研究科
- 06-4 在宅医療における看護師の多職種連携・協働の検討
大島 浩子、鈴木 隆雄
国立長寿医療研究センター
- 06-5 在宅緩和医療推進のための医療・介護地域ネットワーク構築への試み
～コアとなる看護師・薬剤師の人材育成に向けて～
竹内 千草¹⁾、加藤 種子²⁾、下鶴 紀之³⁾、松浦 明海⁴⁾、亀山 孝子⁵⁾、松井 由美子⁶⁾、杉本 由佳⁷⁾
¹⁾ あしたば訪問看護ステーション、²⁾ かいなん調剤薬局、³⁾ あすわひのきケアプランセンター、
⁴⁾ 名古屋市守山区訪問看護ステーション、⁵⁾ 名古屋市守山・名東ケアマネジメントセンター、
⁶⁾ エム・ケア介護センター、⁷⁾ すきもと在宅医療クリニック
- 06-6 地域医療学実習で実施した医学部学生による模擬サービス担当者会議に関する検討
山中 崇¹⁾、玉井 杏奈¹⁾、野口 麻衣子¹⁾、平野 央¹⁾、弘田 義人¹⁾、藤田 崇宏¹⁾、孫 大輔²⁾、
大西 弘高²⁾、江頭 正人³⁾、飯島 勝矢⁴⁾、秋下 雅弘⁵⁾
¹⁾ 東京大学医学部 在宅医療学拠点、²⁾ 東京大学大学院医学系研究科 医学教育国際研究センター、
³⁾ 東京大学医学部附属病院 総合研修センター、⁴⁾ 東京大学 高齢社会総合研究機構、
⁵⁾ 東京大学大学院医学系研究科 加齢医学

一般演題7

7月19日(日) 13:00～14:00 第4会場(2F・曙)

「緩和ケア①」

座長：森本 昌宏（近畿大学医学部 麻酔科学講座 教授）

- 07-1 在宅で終末期患者を支える ～それぞれの専門性を活かしたチーム連携を通して～
内藤 道代
訪問看護ステーションかいな・内藤耳鼻咽喉科クリニック
- 07-2 在宅緩和ケア支援における緩和ケアチームの役割
渡辺 陽子^{1,2,3)}、上塚 大一^{1,2,4)}、粟村 真須美^{1,2,3)}、中谷 公香^{1,2,5)}、杉原 弘記^{1,2,6)}、黒河 香織^{1,2,3)}、
岡田 昌浩^{1,2,6)}、村山 直子^{1,2,7)}、川村 美香^{1,2,3)}、吉田 明弘^{1,2,8)}、村上 斗司^{1,9)}、巻幡 清¹⁰⁾
¹⁾ 尾道市立市民病院、²⁾ 緩和ケアチーム、³⁾ 看護部、⁴⁾ 外科、⁵⁾ 社会福祉士、⁶⁾ 薬剤部、⁷⁾ 臨床心理士、
⁸⁾ 歯科・口腔外科、⁹⁾ 呼吸器内科、¹⁰⁾ 田熊巻幡医院

- 07-3 福山市医師会在宅緩和ケア相談窓口「ローズネット」の運用状況について
—事例を検討し今後の相談窓口の在り方を考察する—
藤井 慎二¹⁾、新田 優子²⁾、高尾 美恵子³⁾、野島 洋樹^{3,7)}、藤岡 正博^{5,7)}、井上 育忠^{4,7)}、
丸山 典良^{2,7)}、古口 契児^{6,7)}
¹⁾医療法人祥和会 脳神経センター大田記念病院、²⁾まるやまホームクリニック、
³⁾のじまホームクリニック、⁴⁾井上医院、⁵⁾船町ふじおかクリニック、⁶⁾福山市民病院、⁷⁾福山市医師会
- 07-4 在宅療養支援への取り組み ～外来看護師の役割を通して～
鳥谷 利香、森 良子
医療法人仁寿会 南野病院
- 07-5 急性期一般病院における在宅緩和ケアと訪問診療
西村 拓^{1,2)}、坂田 晃一郎¹⁾、木村 恵美子³⁾、久保田 厚子⁵⁾、松永 佳恵⁴⁾、益田 恵梨⁷⁾、
縄田 涼平⁶⁾
¹⁾JCHO 下関医療センター 消化器外科、²⁾JCHO 下関医療センター 看護部、
³⁾JCHO 下関医療センター 緩和ケア内科、⁴⁾JCHO 下関医療センター 栄養治療部、
⁵⁾JCHO 下関医療センター 薬剤部、⁶⁾JCHO 下関医療センター 血液内科、
⁷⁾JCHO 下関医療センター 医事課
- 07-6 『自宅で最期まで自分らしく過ごしたい』を支える多職種連携の実際と訪問看護の役割
原口 尚子¹⁾、鈴木 幾美¹⁾、大久保 築世²⁾、井上 聡太³⁾
¹⁾小鹿野町訪問看護ステーション、²⁾小鹿野町地域包括支援センター、³⁾おがの薬局
- 07-7 在宅緩和ケアの裾野を広げるために 一要町方式、わたクリニック方式のすすめ—
行田 泰明
医療法人社団淳友会 わたクリニック

一般演題8

7月19日(日) 14:00~15:00 第4会場(2F・曙)

「緩和ケア②」

座長：丸山 道生（医療法人財団緑秀会 田無病院 院長）

- 08-1 在宅医療中の疼痛コントロール困難患者への病院からの支援
吉田 秀行、兼松 清果、吉田 良、権 雅憲
関西医科大学 外科
- 08-2 在宅における皮膚露出悪性腫瘍に対する Mohs 軟膏による局所コントロール
寺林 徹^{1,2)}、山極 哲也^{1,2)}、渡辺 剛²⁾、中山 晋哉^{1,2)}、鈴木 馨¹⁾、伊藤 怜子^{1,2)}、山岡 義生¹⁾
¹⁾日本バプテスト病院 ホスピス、²⁾バプテスト在宅ホスピス緩和ケアクリニック

- 08-3 在宅緩和ケアの後方病院として担うべき役割 ー緊急時受け入れとその後
林 路子、高橋 修
医療法人平和会 平和病院
- 08-4 人生の最終段階における非がん疾患患者の呼吸困難に対するモルヒネの使用実態
～在宅療養支援診療所医師の意識調査～
西川 満則¹⁾、久保川 直美²⁾、高梨 早苗³⁾、川崎 奈津子³⁾
¹⁾ 国立長寿医療研究センター 緩和ケア診療部 /EOL ケアチーム、
²⁾ 国立長寿医療研究センター 薬剤部 /EOL ケアチーム、
³⁾ 国立長寿医療研究センター 看護部 /EOL ケアチーム
- 08-5 タペンタロールの治療戦略（在宅も含めて）
吉澤 明孝¹⁾、石樽 裕之²⁾、金澤 邦史²⁾、下田 敦子²⁾、木根 久江³⁾、中村 晴子³⁾、鈴木 悦子⁴⁾、
大島 久美子⁴⁾、池田 博斉¹⁾、吉澤 孝之¹⁾
¹⁾ 要町病院・要町ホームケアクリニック、²⁾ 要町病院 薬剤部、³⁾ 要町ホームケアクリニック 看護部、
⁴⁾ 要訪問看護ステーション
- 08-6 在宅癌患者への栄養管理の重要性とカルニチン投与の有効性
杉本 由佳
すぎもと在宅医療クリニック
- 08-7 「在宅漢方」から考えるがん終末期ケア
山口 竜司
山口診療所

一般演題9

7月19日(日) 15:00～16:00 第4会場(2F・曙)

「看取り①」

座長：大谷 剛正（相模台病院 院長）

- 09-1 創傷のある患者の在宅ケアと看取り
～小規模多機能居宅介護施設との連携 2 事例から考える～
渡辺 奈保子、今井 友理、飯田 さやか、野本 寿子、吉田 道子、中村 富美、次橋 幸男、
中村 義徳
公益財団法人天理よろづ相談所病院 在宅世話どりセンター
- 09-2 終末期の在宅看護 ～家族の強みを支援するアプローチ～
江川 みゆき、横道 さつき、長尾 優子、菊谷 真寿美、岩永 智美、山地 由紀子
社会医療法人若弘会 わかくさ大東訪問看護ステーション

- 09-3 認知症終末期の自宅看取りに欠かせないプロセス
郷古 洋子、高橋 真由美
公益財団法人宮城厚生協会 坂総合クリニック
- 09-4 A病院の在宅看取り体制への取り組み 一住み慣れた地域で最期まで暮らし続けるために—
大野 知代子、佐藤 幸浩、戸島 雅宏、岸 美津子、福島 和美、村田 紗希
かみいち総合病院 地域医療連携室 家庭医療センター
- 09-5 在宅診療を望む夫に寄り添う妻へ家庭医療チームの関わり
～エンド・オブ・ライフケアの一考察～
大槻 千絵
市立福知山市民病院 地域救命救急センター 看護部 救急外来
- 09-6 在宅看取りを支えるための訪問看護師の役割
岡田 美幸¹⁾、森山 薫¹⁾、田村 直美²⁾
¹⁾ 広島赤十字・原爆病院 訪問看護ステーション、²⁾ 広島赤十字・原爆病院 がん相談支援センター
- 09-7 訪問看護から看取りのプロデュース
石川 和美¹⁾、西岡 陽子¹⁾、山地 教代²⁾
¹⁾ 医療法人健康会 訪問看護ステーションいしかわ、²⁾ 社会医療法人石川記念会 H I T O病院

一般演題 10

7月19日(日) 16:00~17:00 第4会場(2F・曙)

「看取り②」

座長：谷亀 光則（医療法人社団松和会 望星大根クリニック 院長）

- 010-1 地方で行う在宅緩和ケアの実情と発展 ～小鹿野モデルの提案～
加藤 寿
国保町立小鹿野中央病院
- 010-2 認知症グループホームでの看取りを経験して
河村 朋子¹⁾、斉藤 直裕²⁾、中島 由美子³⁾
¹⁾ 磯子区医師会訪問看護ステーション、²⁾ ゆう薬局、³⁾ みなみ横浜ケアプランセンター
- 010-3 患者・家族を支えるケアチーム連携の課題 一看取りの事例分析から—
小林 美沙子¹⁾、大矢 みち子¹⁾、高橋 久美子¹⁾、上川 寿子¹⁾、秋宗 知代¹⁾、上田 美穂子¹⁾、
田井中 直子¹⁾、中村 志穂¹⁾、増田 美也子¹⁾、矩 照幸²⁾、馬場 忠雄²⁾
¹⁾ 医療法人友仁会 訪問看護ステーション すずらん、²⁾ 医療法人友仁会

- O10-4 ICTを活用した多職種連携による在宅での看取りを考える
～認知症、末期がんを抱えた高齢者の事例を通じて～
中島 夕美子¹⁾、河村 朋子²⁾、齋藤 直裕³⁾
¹⁾ みなみ横浜ケアプランセンター、²⁾ 磯子区医師会訪問看護ステーション、³⁾ ゆう薬局
- O10-5 在宅死の現状 当院における在宅看取りと周辺訪問地域の在宅死亡の現状の諸問題について
荘司 輝昭、井尾 和雄、片桐 淳、市川 敦央
立川在宅ケアクリニック
- O10-6 末期がん訪問診療症例への前医による告知の現状と問題点
市場 保
市場医院
- O10-7 認知症高齢者の看取りと家族の代理意思決定に寄り添って
～難治性の慢性疼痛を伴う事例から学ぶ～
河村 理絵
医療社団法人健生会 にしたま訪問看護ステーション

一般演題 11

7月19日(日) 17:00～17:50 第4会場(2F・曙)

「看取り③」

座長：磯辺 靖（医療法人社団愛語会 要町病院）

- O11-1 訪問診療で関わった患者の家族ケア ～亡くなった患者の家族に対する関わりについて～
若松 智穂、外崎 恵美、中林 美穂、今井 みどり
社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 海老名メディカルプラザ 在宅診療推進室
- O11-2 小児脳腫瘍患者の在宅看取り症例を経験して 一環境調整、家族ケア等の課題の総括一
大橋 晃太、加山 真紀子、龍尾 章子、鈴木 純、林野下 裕、大岡 志穂、松浦 理恵
川崎北部在宅診療所
- O11-3 在宅緩和ケアにおけるがん患者看取り場所の選択 一緩和ケア病棟か自宅か一
沖野 孝¹⁾、岡垣 哲也²⁾、中村 洋美³⁾、沖野 章江⁴⁾
¹⁾ 公立甲賀病院 外科、²⁾ 公立甲賀病院 緩和ケア内科、³⁾ 公立甲賀病院 緩和ケア病棟、
⁴⁾ 公立甲賀病院 在宅医療部
- O11-4 若年者の在宅看取りの1例
緑川 靖彦¹⁾、保 清和¹⁾、鈴志野 聖子¹⁾、富澤 絹代²⁾、本郷 延江²⁾、宇佐美 ひろみ²⁾、
小宅 美枝²⁾、村上 春名²⁾、鈴木 則子³⁾
¹⁾ 呉羽総合病院 外科、²⁾ くれは訪問看護ステーション、³⁾ かしま病院 看護部

- O11-5 訪問診療利用者の終末期の医療ニーズに対する実態 ～じぶんノートの配布を試みて～
田代 真理、佐藤 志津子、和田 かおり
医療法人社団 緑の森さくらクリニック
- O11-6 末期がん治療中の在宅ケアの種々問題 ーうつ状態の時、精神腫瘍医の立場からー
高柳 英夫、高橋 健太、木村 朋子
NTT 東日本札幌病院 精神科 がん相談支援センター

一般演題 12

7月20日(月・祝) 9:00~9:50 第2会場(3F・富士C・D)

「症例検討①」

座長：井上 大輔（日本医科大学 臨床教授／
日本医科大学千葉北総病院 緩和ケア科 部長）

- O12-1 術後、誤嚥性肺炎を繰り返し在宅移行に難渋した一症例
岩田 規男
NTT 東日本関東病院 看護部
- O12-2 看取りを宣告されながら在宅療養で自力回復した3例
大原 宏夫
一財)脳神経疾患研究所 附属総合南東北病院 在宅医療センター
- O12-3 仙骨脊索腫の進行による神経因性疼痛に対してケタミンを使用した1症例
椎井 徹、井戸田 舞
銀座ヒロクリニック
- O12-4 退院支援3段階プロセスを活用し自宅での看取りに繋がった事例
～看護師の意思決定支援について考える～
中島 理絵子¹⁾、野口 祥¹⁾、大平 美智子¹⁾、畠山 真弓¹⁾、大橋 香織²⁾、荒井 真巳³⁾
¹⁾JA 北海道厚生連 旭川厚生病院 看護部、²⁾JA 北海道厚生連 旭川厚生病院 退院調整部門、
³⁾道北勤医協訪問看護ステーション東光ぬくもりポート
- O12-5 最後に家族が満足のいく看取りに近づけたケースを振り返って
滝澤 里織、若林 れい子、天野 恵子、高群 麻美、鎌田 順子、小林 直美、井草 小百合、
廣瀬 憲一
医療法人社団守成会 広瀬病院
- O12-6 訪問診療の継続が困難だったALSのケースを振り返って
佐藤 美穂、若林 れい子、井草 小百合、廣瀬 憲一
医療法人社団守成会 広瀬病院

「在宅処置」

座長：山口 佳之（川崎医科大学 臨床腫瘍学 教授）

O13-1 在宅尿路留置カテーテル管理の実態とカテーテル関連尿路感染症（CA-UTI）への対策
～厚生労働省科学研究にて行った大規模アンケート調査結果報告～斎藤 恵介¹⁾、野口 尊広¹⁾、古謝 将之¹⁾、堀内 明¹⁾、平野 央¹⁾、野間 康央²⁾、知名 俊幸²⁾、
小川 剛¹⁾、永栄 美香¹⁾、青木 裕章²⁾、井手 久満¹⁾、武藤 智¹⁾、山口 雷藏¹⁾、堀江 重朗¹⁾¹⁾ 帝京大学医学部附属病院 泌尿器科学教室、²⁾ 順天堂大学医学部附属順天堂医院 医学科

O13-2 訪問看護師による在宅高齢者の脱水のアセスメントと介入に関する実態調査

東村 志保¹⁾、阿部 智子¹⁾、大和 孝江²⁾、戎 五郎³⁾¹⁾ 訪問看護ステーションけせら、²⁾ 株式会社大塚製薬工場 輸液情報センター、³⁾ 株式会社大塚製薬工場 OS-1 事業部

O13-3 在宅での褥瘡、創傷、スキントラブルの治療～自宅にある資材の利用と工夫

水原 章浩

医療法人三和会 東鷲宮病院 循環器・血管外科 褥瘡・創傷ケアセンター

O13-4 特別養護老人ホームにおける寝たきり入居者に対する褥瘡予防のためのスキンケア介入

古川 智恵

四日市看護医療大学 看護学部

O13-5 在宅・老健施設等における褥瘡診療の工夫と問題点

三村 卓司

社会医療法人緑社会 金田病院 外科

O13-6 4次治療を選択した患者の思いと治療継続に向けてのセルフケア支援

新海 尚子

市立甲府病院 外来通院治療室

「退院支援①」

座長：大石 英人（東京女子医科大学附属八千代医療センター 消化器外科）

O14-1 緩和ケア病棟における意思決定支援についての一考察
—在宅での看取りへと移行した事例から—

亀井 美香、山川 智世美、鈴木 優子、佐藤 はつよ

J A北海道厚生連 旭川厚生病院

- 014-2 家族の希望から急遽在宅移行となった2症例 ～病棟での関わりを振って～
戸邊 茂美¹⁾、佐々木 恵¹⁾、平井 菜穂子¹⁾、吉澤 明孝²⁾
¹⁾医療法人社団愛語会 要町病院 看護部、²⁾医療法人社団和顔会 要町ホームケアクリニック
- 014-3 緩和ケア病棟における看護師が行う退院支援・調整への取り組み
～退院支援・調整計画書を作成し活用した結果～
谷崎 登志子、河野 由佳、坂本 香織
宮崎市郡医師会病院 看護科
- 014-4 独居患者の退院支援を促進する看護師の役割 ～終末期がん患者の事例を用いた考察～
関本 華子、高見 紀子、坂下 智珠子
北里大学病院 トータルサポートセンター
- 014-5 がん患者の退院支援と地域連携を促進するための緩和ケア認定看護師の役割
松本 美奈¹⁾、阿部 泰之²⁾、田中 幸恵³⁾、井野 明子⁴⁾、山崎 美恵⁵⁾
¹⁾医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 看護部、²⁾旭川医科大学病院 緩和ケア診療部、
³⁾札幌医科大学附属病院 医事相談センター、⁴⁾KKR 札幌医療センター斗南病院 看護部、
⁵⁾社会医療法人恵佑会 訪問看護ステーション恵佑会
- 014-6 退院支援の質向上に向けた病棟看護師の育成の取り組み 第1報
山本 裕子、小林 加代子、島中 小百合、富田 和代
J A 岐阜厚生連 久美愛厚生病院
- 014-7 特定機能病院における退院支援スキルアップ研修の取り組みと効果
坂井 志麻¹⁾、大堀 洋子²⁾、田中 優子²⁾、佐藤 由紀子²⁾、渡邊 亜美²⁾、藤井 淳子²⁾
¹⁾東京女子医科大学 看護学部、²⁾東京女子医科大学病院 社会支援部

一般演題 15

7月20日(月・祝) 9:50～10:50 第4会場(2F・曙)

「症例検討②」

座長：石黒 俊彦 (医療法人社団愛語会 要町病院 内科(循環器)・麻酔科、
要クリニック 院長)

- 015-1 自宅療養だけでなく就労復帰まで可能となった食道気管支瘻併存進行食道癌の1例
古川 景子、新島 沙衣、山本 多加世、西村 拓
独立行政法人地域医療機能推進機構 下関医療センター 看護部
- 015-2 Bevacizumab 伴う外来化学療法中に消化管穿孔を発生した進行直腸癌の2例
三宅 泰裕¹⁾、池田 公正²⁾、村上 雅一²⁾、岡 義雄¹⁾、根津 理一郎¹⁾、黒川 英司²⁾、吉川 宣輝²⁾
¹⁾西宮市立中央病院 外科、²⁾箕面市立病院 外科

- 015-3 在宅医療を続ける上で支障となりやすい認知症について
—認知症になっても「死ぬまで在宅を」—
高柳 英夫
NTT 東日本札幌病院
- 015-4 認知症周辺症状に対する漢方療法 —抑肝散以外の選択枝
岡山 容子、今林 伸康、糸井 真一
千春会 千春会病院 在宅医療部
- 015-5 在宅で療養する認知症患者への訪問看護介入時期の検討
川本 雪江¹⁾、杉本 由起子²⁾、森山 薫³⁾、越部 恵美⁴⁾、鈴木 妙⁵⁾、野田 真由美⁶⁾、岡田 淳子⁷⁾
¹⁾ 東広島地区医師会賀茂台地訪問看護ステーション、²⁾ 東広島地区医師会地域連携室あざれあ、
³⁾ 広島赤十字・原爆病院訪問看護ステーション、⁴⁾ ほっと・はあとステーションでのひら、
⁵⁾ 鳥取県看護協会訪問看護ステーション、⁶⁾ 広島県看護協会訪問看護ステーション「中央」、
⁷⁾ 日本赤十字広島看護大学
- 015-6 在宅看護の充実を目指して
～2つの地域（首都圏と地方都市）での看護師の起業に向けての抱負と課題～
赤瀬 佳代¹⁾、山本 志乃²⁾
¹⁾ 合同会社岡山在宅看護センター晴、²⁾ 株式会社在宅看護センター横浜
- 015-7 高齢者心不全患者の在宅管理及び看取りについて
石黒 俊彦¹⁾、磯邊 靖¹⁾、吉澤 明孝¹⁾、古市 祥子²⁾、吉澤 孝之²⁾、大島 久美子³⁾、中村 春子³⁾、
木根 久江³⁾、鈴木 悦子³⁾
¹⁾ 要町ホームケアクリニック、²⁾ 要町病院、³⁾ 要訪問看護ステーション

一般演題 16

7月20日(月・祝) 10:50～11:50 第4会場(2F・曙)

「退院支援②」

座長：土橋 正彦（千葉県医師会 副会長／土橋医院 院長）

- 016-1 肺癌患者の退院支援時の意思決定支援への課題
吉川 恵、林 真由美、川瀬 静、小澤 洋子
愛知県がんセンター 中央病院
- 016-2 連携で支えたがん末期独居高齢者の在宅復帰と自宅での看取り
高橋 まゆみ、石崎 華代、亀山 嘉子、仙石 佳代、野開 哲司、中田 しのぶ、谷山 真理子
富山市立富山市民病院 地域医療部 地域医療連携室

O16-3 癌性消化管狭窄患者に対する摂食回復支援食あいーとの安全性ならびに有効性の検討

松岡 美緒¹⁾、篠木 敬二²⁾、畑 亜希子²⁾、梶原 華奈子²⁾、間狩 洋一³⁾、飯島 正平⁴⁾

¹⁾大阪府立成人病センター 栄養管理室、²⁾箕面市立病院 栄養部、³⁾箕面市立病院 外科、

⁴⁾公立学校共済組合近畿中央病院 外科

O16-4 経腸栄養で退院した患者の退院後調査結果報告

日高 久美¹⁾、飯島 正平²⁾

¹⁾箕面市立病院、²⁾近畿中央病院

O16-5 在宅訪問栄養食事指導の現場からの報告 現状と問題点

清水 陽平¹⁾、志村 通子²⁾

¹⁾社会医療法人 JMA 海老名メディカルプラザ 栄養科、

²⁾社会医療法人 JMA 海老名メディカルプラザ 在宅診療推進室

O16-6 義歯の有用性 ～他職種のアプローチから～

渡部 裕美¹⁾、原 秀夫¹⁾、中島 夕美子²⁾、田中 洋行¹⁾

¹⁾原歯科医院、²⁾みなみ横浜ケアプランサービス

O16-7 KM-CART 目的で入院した患者の退院支援

佐々木 正美、牧田 和香子、板垣 鈴子、松崎 圭祐

医療法人社団愛語会 要町病院 看護部